

南圏域包括ケア会議

テーマ：「もしもの時に備えて災害時の対応について考える」

参集者：市羽茂支所長、小木、赤泊行政サービスセンター長、保健師、ケアマネジャー、生活支援コーディネーター、佐渡南地域包括支援センター職員等

目的：これまでは災害が少ないイメージの佐渡市だったが、令和4年12月に発生した大規模停電や令和6年1月に発生した能登半島地震を経験し、災害に対する危機感や防災に対する関心が高まっている中、もしもの時に連携した対応が行えるよう、南圏域の関係者を参集し、お互いの役割や地域の特性について理解を深めるとともに、課題について話し合った。

内容：第1回目「地域での取り組みと課題について」

○手入れされていない竹藪が多く、大雪時は通行止めや停電の要因となった。

○防災研修会にて地域で避難場所を確認した。避難場所は多くあり、エリア分けしていないためその時々に行ける場所に避難できるようになっている。屋内の避難所は少ないため、改めて確認が必要。

○車での避難は、対応を考える必要がある。経路や緊急車両の通る道の確保が大事。

○避難所の電気、水道、ガス、食料をどうするか。一番必要な物は飲み水と食べ物（温めるための道具が必要）。離乳食など用意がないものがあった。暖を取るものは行政や地元企業から借りる。

○要援護者の避難はどうするのか。消防団が手伝ったところもある。地区内の顔の知っている人が対応できると良いのではないか。（事前にお互い確認しておく）

○海岸線地域では津波の逃げ道マップとして、世帯ごとに逃げ道を記した地図を持つようにしている。実施にあたっては、行政から各自主防災組織を通して世帯に配布し、記入してもらったものを一旦回収し、清書したものを各世帯に返した。

○緊急情報伝達システムは、戸別受信機の充電が切れると使えない。大雪の時には携帯電話の基地局がダメになってしまい、電話が通じなくなった。災害時に電話が通じなくなった時には、公衆電話を使用するといいい。

○「見守り隊」が組織されている地域があり、日頃から見守りや買い物の支援など、地域での助け合いに力を入れている。令和4年12月の大雪の際には、地域の集会所を避難所とした。子供も避難しており、皆でカレーを調理して食べたり、ごはんをおにぎりにして独居世帯等へ配った。

【全体を通して】

○地区防災計画の策定を進めているが、災害時には公助だけでは不十分。行政を頼りにするばかりでなく、日頃の備えや「自助」「共助」が大切であると感じた。

第2回目「自助の意識を高め、共助につなげるために」

【災害が予測される状況への備え】

- 情報収集できるツールの把握。普段から活用する。
- 乾電池やモバイルバッテリーの用意。
- 近所の方の状況を把握。
- ハザードマップの確認や災害特集番組を視聴する。
- 普段着で寝る。

【安全を確保するための備え】

- 家具の固定や物を減らす。片付け。
- 懐中電灯を家のあちらこちらに設置する。常夜灯を点けておく。
- 窓の鍵を何か所か開けておく。
- 家族で避難経路の確認をする。
- 火災防止のため、仏壇の線香やろうソクが倒れないようにしている。

【避難のための備え】

- 枕元に非常用持出袋を用意。はきやすい靴の用意。飲料水パックの用意。
- 車に毛布や簡易トイレを積む。
- ガソリンは半分以上入れておく。
- 地区の避難訓練に参加し、避難所まで歩いてみる。
- 薬の予備を持つ。
- ランタン型のライトを用意。スマホの充電。
- 車でコンセントを使えるよう装置を設置。

【自宅で過ごすための備え】

- 石油ストーブ、だるまストーブ、灯油、湯たんぽ、カイロの用意。
- 食材のローリングストック、レトルト食品や保存食、水の備蓄。
- カセットコンロ
- 手動式洗濯機
- 日用品を多めにストックする。
- 持病のある方は薬がなくなる前に余裕をもって通院する。

【自助を広める方法（参考）】

- 防災に備える意識向上を図るために研修を行う。（集落長研修、防災会長研修など、任期満了で引継ぎ時に行う）。

- チラシを作成し、QRコードを掲載、そこから動画が見られるようにする。
(チラシは配布のほか、店頭掲示も願います。)
- 社協の支え合いマップ作りを活用して見える化する。
- 防災訓練を当たり前定期開催する。
- 地域の行事に併せて開催しては。(例) 道普請の集合場所や時間を緊急情報伝達システムを活用して周知するなど。避難道を通して集合し、昼食は炊き出しをしてみんなでご飯を食べる。袋での炊飯も手順等はやらないと覚えられない。子どもも楽しめるような内容もよいのではないか。
- 健幸ポイントのようなポイント制を導入して備えを楽しみながら行う。
- 重要事項や防災マップ(逃げ地図)を常会などで各家庭に配布し、家に貼ってもらう。
- 被害が少なそうな地域へ防災について周知し、考える機会を作ってもらう。
- マイバッグに備えるべきものを印刷して配付する。
- 定期的に「レトルトを食べる日」「缶詰を食べる日」などを設け、備蓄品を入れ替える機会にする。健康学習会で缶詰を使ったレシピの紹介など。

【まとめ】

「自助の取り組みを広げる」方法がいくつか挙がったが、楽しい取り組みであれば広がりやすいのではないかなど、今後の活動に活かすことができそうなヒントや対策を導きだせたと思う。今年度の担当圏域包括ケア会議で「防災について」会議を開催したが、次年度さらに佐渡市包括ケア会議で深めていってもらえればと思う。